

# 羅針盤

令和2年度 第8号 (通算322号)

令和2年10月12日(月)発行

岡山県総合教育センター 企画部

Tel (0866)56-9102 Fax (0866)56-9122

## GIGA 先進校の取組を 紹介します

～おかやま ICT 活用実践事例集～

GIGA スクール構想の実現に向けた取組が進んでいます。高速ネットワーク環境と一人一台端末の活用が、児童生徒の新たな学びの場を広げていきます。GIGA スクール構想の目指すところである公正に個別に最適化された学びの実現には、一斉指導だけではなく、様々な情報手段を活用した主体的な学習活動が重視されていきます。

岡山県総合教育センターでは、取材した先進校の好事例などを Facebook で紹介していますが、県総合教育センターWeb ページで「GIGA スクール構想実現に向けた ICT 活用推進の好事例」としてとりまとめて掲載します。ここでは、これまで取材した内容の一部を紹介します。

高梁高等学校では、臨時休校より前からオンラインで学習の活用準備を進めていました。3月上旬から学校が休校となり、教師の説明動画やWeb 会議システムを使った授業配信を活用した学習支援が進みました。この学習スタイルが合う生徒もいて、積極的に参加する生徒が多く見られているとのことでした。

就実小学校では、昨年度から、一人一台のiPad で、リテラシー、表現力・プレゼンテーション能力などの育成に取り組んでいます。臨時休校中の授業配信では、Seesaw Class を活用し、教科担当が10分以内の動画を作成し、ノート整理や課題作成、提出などの活動を含めて40分間となるよう、時間割を設定して配信していました。

早島支援学校、西備支援学校では、臨時休校中の校内研修の様子を取材しました。両校とも、より効果的で効率的な授業改善を、新たなICT 活用の中で、意欲的に進めようとしていました。授業の収録や配信方法、G Suite for Education の活用について研修を進めていました。「出来ることから順次取り組んできた。今後も継続的に校内研修を続けていく」とのことでした。

林野高等学校では、「授業での活用のためには、ICT の良さを実感できるよう、校務での活用から始めること」「組織的に取り組むため、中核となる人材を育成すること」も有効であると感じました。ICT 活用の先導的かつ組織的な実践の蓄積により、ICT 活用が目的化しておらず、生徒主体の効果的な学びにつながっていると実感しました。

和気閑谷高等学校では、通常授業での一人一台のiPad の活用状況を参観しました。個別最適化学習が行われており、生徒は慣れた様子で解答を入力していましたが、入力後は瞬時に採点され、画面に結果が表示されるので、その場で学び直しができる仕組みでした。また、発問に対する自分の考えを端末に入力し、すぐにクラス全体で共有していました。端末内でグループワークが実施されており、新しいグループワークの在り方を知ることができました。

岡山県総合教育センターは、今後も引き続き「おかやま ICT 活用実践事例集」の充実により、GIGA スクール構想の実現を支援していきたいと考えています。なお、詳細は、当センターWeb ページ(<https://www.pref.okayama.jp/soshiki/215/>)及び Facebook をご覧ください。



Facebook

